

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	戸邊 友揮
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 Analysis of Actual Situations and Risk Factors for Early Detection of Child Abuse in a General Hospital in Japan (日本の総合病院における児童虐待の早期発見のための実態およびリスクファクター分析)
	掲載誌 Acta Criminologiae et Medicinae Legalis Japonica 2024; 90: 57-68
	主査 清水 直樹 副査 古田 繁行 副査 呂 彩子
[論文の要旨・価値] 被虐待は生涯にわたり影響を与え続けるトラウマ体験であるが故に、早期発見・早期介入が望まれる。わが国の医療機関からの虐待通告は全通告の2%に過ぎず、総合病院での虐待の見逃しが示唆されている。当学虐待防止委員会(MCAP)への連絡事例を後方視的に分析し、早期発見のための危険因子を検討した。2018年から2022年の4年間にMCAP委員会が受理した2歳から18歳209例中160例(虐待群119例：非虐待群49例)を対象とした。被虐待児・養育者・虐待の特徴計120項目を診療録から抽出し、虐待の有無や類型毎の危険因子を解析した。OR(95%CI)は虐待履歴有5.12(1.93-13.62), 兄弟間問題有29.06(2.82-299.39), 養育者分離経験有3.09(1.05-9.14), 重度外傷0.13(0.03-0.54)。身体的虐待：兄弟関問題有8.06(2.14-30.27), 養育者分離経験有2.94(1.13-7.65), 重度外傷0.22(0.05-0.90)。心理的虐待：女兒3.17(1.10-9.11), 虐待履歴有4.14(1.32-13.03), 身体疾患に精神疾患併存27.08(3.01-243.38), ASD 傾向4.74(1.10-20.39)。ネグレクト：虐待履歴有10.31(3.14-33.81), 兄弟間問題有9.61(1.83-50.43)であった。以上から、虐待履歴・兄弟関係・養育者分離経験など家族関係の丁寧な聴取が虐待早期発見に重要であり、かつ当該患者の治療の妨げとなりうる偽陽性通告頻度が下げられる可能性が示唆された。身体的虐待では外傷重症度だけを重視することは誤った判断になる可能性が示唆された。心理的虐待では、対象児に精神疾患や発達障害がある事例で高いORが確認されたことから、それらが疑われる事例では心理面にも積極的に介入する必要があると考えられた。総合病院における虐待早期発見とスクリーニングでの、家族関係の丁寧な聴取の重要性と具体的項目が示され、今後の展開が期待できる優れた研究であり、学位に値すると判断した。	
[審査概要] 審査は主査、副査2名および陪席者4名のもとで行われた。20分間のPCによるプレゼンテーションの後、40分間の質疑応答が行われた。審査のなかでは、(1)0-1歳を対象から外した理由(2)調査項目選定方法(3)研究者による虐待判定ロジック(4)対照群の適正性(5)身体的外傷の程度が危険因子にならなかった理由と背景など多岐にわたる質問が出され、申請者は概ね的確に回答した。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 良く練られた構成の発表であった。申請者は本研究に関する幅広い知識を有しており、質疑応答も専門・周辺両領域につき的確に回答し十分な発表能力があった。真摯な態度に終始し誠実で礼儀正しく、学位授与に値する人物であると判断した。英語読解力は英文文献の一部を指定し、その場での和訳により十分な読解力があると判断した。	